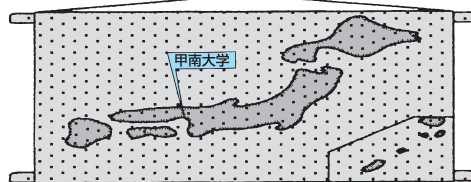


Zephyr

ゼフィール・にしかぜ

〈第31号〉


<http://www.kilc.konan-u.ac.jp>

国際言語文化センターのFD活動

一学生による授業評価、アクティブ・スチューデント、学習指導室の活用などー 所長 原田登美	1
学生による授業評価<英語・ドイツ語・韓国語>	2
アクティブ・スチューデント	
チューター制度実施報告<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語>	4
外国語強化合宿<ドイツ語・フランス語>	6
学習指導室・マルチメディア自習室利用のご案内	8

国際言語文化センターのFD活動

—— 学生による授業評価、アクティブ・スチューデント、学習指導室の活用など ——

国際言語文化センター所長 原 田 登 美

FDの活動は大学教育の資質向上を目的として、英、米、独、蘭、豪州などをはじめ、韓国、フィリピン、シンガポールなど世界各国で実施されています。

FDとはFaculty Developmentの略であり、狭義には「教員の教育能力開発」とか「大学教員研修」とか訳されます。しかし、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会の大学分科会では1998年「各大学は、個々の教員の教育内容・方法についての組織的な研究・研修（ファカルティ・ディヴァロップメント）の実施に努めるものとする旨を大学設置基準において明確にすることが必要である」と提案し、FDを「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称」と定義しました。すなわち、冒頭に示した狭義よりはもっと広く「組織的な取組の総称」とあるとの定義付けを行っているのです。

上記の定義に基づき、国際言語文化センターでは、FDへの組織的な取組みとして、本センターの教育の二つの柱である「外国語科目」と「国際言語文化科目」の充実のためにカリキュラムの改善と開発を行っています。そして、科目を担当する全教員が本センターの教育の基本目標である「学習者中心、双方向でのコミュニケーションな授業を実践する」こと、「言語文化教育を通して国際理解・異文化理解を深め、国際人としての教養と自己表現能力を養い、世界の人材養成に貢献し、本学学生の国際化・活性化に繋げる」という目標のために、研究会や日々の研鑽を通じて学生の学習動機や意欲を高める教授法を工夫し実践することに努力しています。

授業は教員だけの努力や工夫によって改善されていくものではありません。学生の主体的な授業参加があってはじめて本当の意味での学習者中心の授業となり、教員と学生の双方向での授業の運営が可能となります。学生の声や意見を聞き、学生の主体的な授業を実現するために、本センターでは、大学が実施する「授業評価アンケート」に加えて、英語・独語・韓国語の授業では独自の評価アンケートを行い、学生の意見や評価を授業に反映させる試みを行っています。

また、授業で学習した外国語を、クラス以外の時間にも、各言語を母語とするネイティブと直接に自由にその言語で話し合う機会を増やすために、「チューター制度」を設けています。さらには、平生記念セミナーハウスなどの宿泊施設を利用して、専任教員の他、母語話者や留学生、

留学から帰国した本学の学生を交えて、外国語のみで生活する擬似空間を体験する「強化合宿」を行っています。いずれも正規授業を支援すると同時に、母語話者と直接に交流する機会や各文化圏の擬似空間を通じて、その言語を身近に感じ、学習意欲と動機をもっと高めるための取り組みです。

さらに、外国語についての勉強、留学、就職などの相談に応じるため、専任教員による「外国語学習相談アワー」を学習指導室で開設しています。この「学習指導室」については、外国語学習のために学生が利用することができ、個人やグループで留学や検定試験の準備をする時や、留学生を囲んでの歓談など外国語学習の向上に大いに活用することができます。

学生による授業評価

英語の場合

英語に関しては2001年から授業評価アンケートを行なっています。英語を母語としている教員のクラスと日本人教員のクラスでは違った種類のアンケートを実施していますが、両方とも選択式と自由記述式の質問を組み合わせたものです。毎年約2000の回答があります。このアンケートの目的を以下に簡単に記します。

- ・学生に語学の授業に関する意見を述べる機会を与える
- ・授業のよい点、悪い点を明らかにする
- ・学生、教員ともに改善をうながす

学生は最終授業日にアンケートを受けます。アンケートにはコース、教員、教科書・副教材、宿題、クラスの難易度・進度などの質問項目があります。自由回答欄ではクラスの満足度など全体的な感想を書くようになっています。

全クラス全学生を対象に同じ形式のアンケートを行なうことで、クラス別に結果を比較し、英語プログラムの様々な面を分析できます。例えば授業の満足度は一般的に上級英語のクラスが高いのですが、これは一クラスあたりの学生数が少ないし、必修ではなく選択科目であることに関連があるようです。また数年前のアンケートでは、TOEICのコースは実際のTOEICの試験に比べるとあまり難しくないという結果を得たので、これを反映させTOEICのコースをレベル別に分け難易度の高いクラスも設けました。

さらに大切なことですが、教科書・副教材やコースデザインに関する学生の意見は教員が次年度の計画を立てる際にとても役立ちます。また基礎英語と中級英語オーラルコミュニケーションに関してはそれぞれレベル別クラス編成にしたところですが、これに関する学生アンケートも今後行なう予定です。

授業評価アンケートを始めて数年、データもかなり蓄積してきました。今後もアンケートを続け、その結果をもとにコースを見直したり、改善したりして、学生の皆さんによりよい英語プログラムを提供できるように取り組んでいく予定です。授業評価アンケートは授業改善には欠かせないものなのです。

(英語担当教員 QUINN Cynthia)

ドイツ語の場合

ドイツ語では1999年以来、基礎ドイツ語科目について学生による授業評価を実施しています。昨年2004年度は基礎ドイツ語Ⅰおよび基礎ドイツ語Ⅱで716の回答がありました。評価はマークシートに5段階で答える形式としていますが、自由に記述する欄も設けています。この学生による授業評価は以下のことを目的として実施しています：

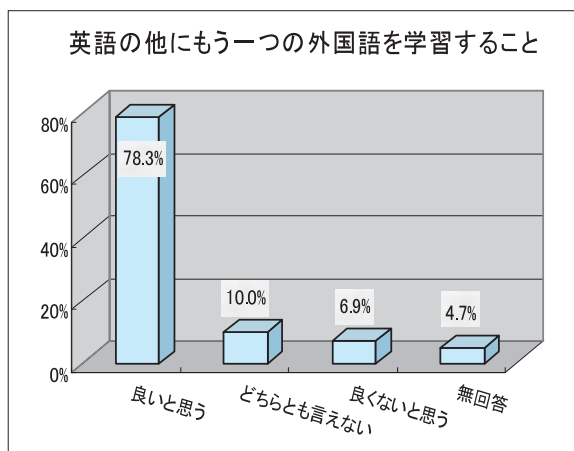
- ① 基礎ドイツ語を受講している学生が自分の出席や参加態度を振り返り、これまでの学びを意識化する
- ② ドイツ語を担当している教員が自分の授業を改善していく
- ③ 評価結果を今後のドイツ語教育全体のコンセプト形成に役立てる

この目的のために、質問項目は、**学生自身のこと**（授業によく出席したか、積極的に参加したか、基礎が身についたと感じるか）、**担当者の授業運営**（満足のいく授業であったか、シラバスにある講義目的と授業内容との整合性、進度、説明の明快さ、質問に対する対応、日本人教員とドイツ人教員の連携など）、**使用している教科書**（使いやすさ）、**外国語教育一般**に関する事柄（二つの外国語を学習すること）など、多岐に亘っています。

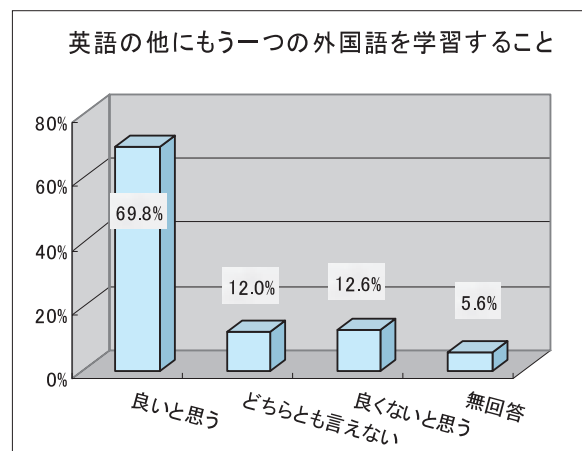
評価結果は、各クラスの担当者に郵送され、翌年度の授業改善に役立てていただいているほか、今後のドイツ語教育全体のコンセプトを見直す際の重要なデータとなります。

ことばと文化は深いつながりにあります。複数のことばを理解することはそれだけ多様な文化を理解し、その文化を背景にもつ人々を理解することにもつながります。「英語の他にもう一つの外国語を学習する事をどのように思うか」という質問に対して、毎年、多くの学生がそれを支持する結果になっていることを大変嬉しく思っています。内容を改善しながら、今後もアンケートを実施し、よりよいドイツ語教育を学生の皆さんに提供するように努めていきます。

（2003年度）



（2004年度）



（ドイツ語担当教員 藤原三枝子）

韓国語の場合

韓国語では、2年前から「基礎韓国語Ⅰ」・「基礎韓国語Ⅱ」を対象にして、学生による授業評価を行っています。2004年度の参加者は延べ620名でした。その評価項目としては、18項目設け、学生自身や授業（教師）に対する評価の内容で構成されています。回答はマークシートに5段階で答える形式をとっていますが、自由に記述する項目も設定しています。

アンケート調査は、学生の反応を拾い上げ、その要望に応えつつ、よりよい授業を提供するために実施しています。調査の結果からは、様々なことを読みとることができます。学生の動向、例えば学生がどれくらい勉強しているのか、また学生がどのような授業内容に難しさを感じているのかなどを把握することができます。加えて、逆に授業における教師の改善すべき点も読みとることが可能です。

この調査の実施に伴う利点としては、学生や教師にそれぞれ feedback させる具体的な資料が得られること、またこの資料に基づいて授業の改善をはかることができることと言えます。

今後は、評価項目を増やしてより具体的なデータが得られるように工夫することが一つのポイントであり、また得られた資料に基づいて改善した授業を、それぞれの教師が共有し、引いては各学部がほぼ同じ条件のもとで成績評価ができる環境づくりが課題であると言えます。

（韓国語担当教員 金 泰虎）

アクティブ・スチューデント

チューター制度実施報告

国際言語文化センターでは、2004年10月から2005年1月にかけて、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語で、これらの言語を学ぶ学生の運用能力向上のためにネイティブ・スピーカー講師による「チューター制度」を設けました。実施場所は、6号館5階に設置されている各言語の学習相談室でした。期間中、以下の表のように、延べ551名ものたくさんの学生が相談室を訪れ、チューターの先生とのコミュニケーションを通じて、言語と文化についての学習を深め、理解を深めることができました。



	実施総日数	実施総時間	延べ参加者数
ドイツ語	20日	60時間	99人
フランス語	20日	60時間	88人
中国語	42日	103時間	190人
韓国語	31日	61.5時間	174人
合 計		284.5時間	551人

各言語の実施状況をお知らせします。

<ドイツ語の場合>

多様なニーズをもつ学生さんたちが参加しました。ベルリンの大学生で、当時、関西で勉強や研修をしていた Katrin さんと Marcus くにチューターをお願いしました。ドイツ語に関する国際試験「オーストリア政府公認ドイツ語能力試験」受験のためにこのプログラムを定期的に利用する参加者が主体となりました。その成果として4名がこの試験の Grundstufe に合格することができました。具体的な成果に繋がったことを嬉しく思います。

※ **参加学生からの声** ※ チューター制度では、苦手な話すことに取り組めてよかったと思います。分からないことがあればすぐ聞けて答えてくれるし、授業でよりも気軽に手を挙げる事ができました。同じようにドイツ語を勉強しようという気持ちを持っている人たちと少人数クラスで勉強できたことが良かったです。テスト対策にもなりました。またチューター制度があるなら利用したいです。ドイツ語を習うだけでなく、ドイツについての話を聞くことができ、ドイツ人と交流することができて楽しかったです。

※ **チューターからのコメント** ※ Die Studenten waren sehr regelmäßig anwesend und auch mit viel Eifer dabei. Manchmal haben wir die gesamten drei Stunden durchgearbeitet, da sie so ehrgeizig waren. Es war hoffentlich auch nicht langweilig, ich jedenfalls hatte sehr viel Spaß und habe viel gelacht mit den Studenten. Ich hoffe und denke, dass die Tutorienstunde für alle motivierend und eine Hilfe war. (学生たちは出席もよく熱心さのあまり3時間ぶっ通しで勉強したこともありました。たくさん笑いながら、楽しく学習することができたと思います。チューターとの時間が皆さんにとってためになるものであったと思います。(Katrin Dohlus))

(ドイツ語担当教員 藤原三枝子)

<フランス語の場合>

最初は、おそろおそろ(?)学習指導室を訪れていた学生たちも、次第に、チューターを務めるフランス人留学生2人(Aurélie さん、Coline さん)と打ち解けて、「フランス語の先生」というよりは「フランス語を母語とする友人」として、フランス語で交流を深めたようです。チューター制度を利用した学生の目的を、アンケートから分析してみると、次の3つに大別されます。

- 1) フランス人と フランス語で会話する ことに慣れたい。
- 2) 同年代のフランス人と フランス語で交流したい。
- 3) フランスの文化に親しみたい。フランスのことをもっと知りたい。

授業時間中だけではなく、「自由時間にもフランス語で会話したい」という意欲ある学生が増えていることは非常に喜ばしいことです。フランスの文化に対する関心が高まっていることも、「異文化理解」「国際理解」という面から高く評価できるでしょう。そして何よりも、同世代のフランス人学生との交流は、学習意欲を高めるうえで、きわめて有用です。フランス人学生が何を考えているのか、じかに接して話すことで得られるものは大きく、チューター制度を頻繁に利用した学生の一人は、この秋フランスへ交換留学生として旅立ちます。この制度の実施が、昨年度に限られることなく、恒常的に実施されることを切に願います。

(フランス語担当教員 中村典子)

<中国語の場合>

中国語のチューターは非常勤講師の中国人の先生に担当していただきました。内容は来訪する学生の希望に応じてさまざまです。以下、学生のアンケートから引用します。「発音をかなり直されました。子音をちゃんと発音できるように口唇をちゃんと丸めて話すことなど、何度も繰り返

返して練習し、教科書2頁で一時間もかかりました。厳しかったです。」「中国の話が面白かったです。中国人は食べることが大好きだそうで、長い列車の旅では、見ず知らずの人でも隣に座ったら一緒に飲み食いして、目的地に到着した頃には親戚のように打ち解けてしまうらしいです!」「中国の大学は全寮制で、キャンパスは広いので自転車が必要、大学生は朝から晩まで勉強しているなど、驚くことが多く、楽しく話を聞いた。」

チューターの故郷の話、中国の大学生活について、中国料理・中国のお菓子について、一般の中国人の日本観など話題は多岐にわたり、検定試験対策のリスニングのトレーニング、留学に行く学生の会話練習、授業の朗読暗唱課題の練習など、中国語に関してもひとりひとりの要望に合わせていねいに指導しました。

授業時間内ではなかなかできない個別の徹底的な発音指導もできましたし、会話練習のときは日本語を一切使わず、わからない単語は別のことばで言い換える擬似的中国留学空間を作ることができました。学生にとって、ネイティブの人と一対一で向かい合う貴重な機会を作ることができ、有意義だったと思います。

(中国語担当教員 石井康一)

<韓国語の場合>

チューター制度の実施に当たって、果たして何人くらいの学生がたずねてくるか心配をしていました。でも、参加人数とは関係なく、気楽に参加して耳学問ができること、授業とは異なる雰囲気質問できること、そして教師と学生という関係を離れて話ができることなどは、学生にとって有益であると思っていました。

ところで、その実施の結果は予想を裏切るものでした。先の表でみるように、実施時間総数と延べ参加者数から多くの学生がたずねてきているのが確認できます。ちなみに、「韓国に行ってみよう。韓国人の友達をつくりたい。もっと韓国文化に接したい。」との反応から、チューター制度の実施は学生に問題意識を掻き立てる相乗効果もあったと思われます。なお、授業の中で十分消化できなかった内容を勉強する学習の場にもなったのです。

何よりも学生が怖がらず、ネイティブの人と接することができたこと、授業という形態とは異なる環境で様々な話が弾み、異文化の紹介まで及んだことは、チューター制度実施の大きな収穫だと思います。ますます発展させて、より多くの学生に対してチューターの体験ができるように努力していきたいと思います。

(韓国語担当教員 金 泰虎)

外国語強化合宿

ドイツ語合宿

ドイツ語合宿は2005年1月29日(土)～1月31日(月)まで甲南大学平生記念セミナーハウスで開催されました。参加者は、学生10名、ドイツ人学生チューター2名、神戸に留学中のドイツ人学生2名そして、ドイツ語専任教員2名の合計16名でした。合宿の目的は、ドイツ語学習者が一定期間、教員や同年代のドイツ人学生とともに、集中的にドイツ語でコミュニケーションを行うことにより、自然な環境の中でとりわけ「聞く・話す」能力を伸ばすことにありました。

合宿プログラムは、1日目のウェルカム・パーティーから始まり、その夜はドイツ映画“Good-Bye Lenin”の鑑賞、2日目の朝9時から本格的なドイツ語トレーニングの開始。授業は、2004年10月から2005年1月までチューターとして活躍してくれたKatrinさんとMarcusくんによるドイツの歌を使った学習や、ドイツ語教員によるドイツのニュース解説、コラージュを作成しな



がらドイツ語を学習するなど盛りだくさんの内容でした。夕食後は夜遅くまで会話がはずみ、チューターのドイツ人学生やドイツ語教員、参加者同士がとても仲良くなることができました。参加した学生さんたちからは、これからも毎年合宿を続けて欲しいとの声をたくさんいただきました。チューターさんたちも合宿を楽しんでくれたようです。

❖ 全くドイツ語に自信がなく、分からないままに参加した今回の合宿でしたが、一言でいって「よかった」です。初め友だちが誰一人参加していなかったもので、少し不安だったのですが、ウェルカム・パーティーから始まり、打ち解けやすく、リラックスしてプログラムに参加できました。途中、私は余りにドイツ語が聞き取れないので「辛い!」と思ったこともありましたが、分かるまで説明してくれたし、ムードも和やかで楽しんでできました。今回の合宿を通して、ドイツ語へのモチベーションがアップしただけでなく、「自分が今何をしたいのか」ということも少し具体的になり、良かったと思います。普段これだけドイツ語に浸ることもなく、気分はドイツでした。

❖ Ich hoffe, dass die Studenten an unserer spielerischen Art und Weise des Unterrichts Spaß hatten. Mein Eindruck vermittelte dies und ich selber hatte auch sehr viel Freude an diesem Wochenende. Allerdings wurde noch etwas zu viel Japanisch gesprochen in der freien Zeit. Mein Dank gilt auch den Lehrern, die für uns alle dieses Wochenende möglich gemacht haben. (学生さんたちは遊び感覚を入れた私たちの授業を楽しんでくれたように思います。私自身もこの週末をととても楽しむことができました。ただ、自由時間に日本語を使いすぎたかも。このような機会を皆に与えてくれた先生方にも感謝しています。)

(ドイツ語担当教員 藤原三枝子)

2004年度フランス語強化合宿

2004年11月26日から28日まで、甲南大学平生記念セミナーハウスにて「フランス語強化合宿」が実施されました。フランス語の学習で自分の生活の何が変わるのか、本校でのフランス語習得が、フランス留学に結びつくのか…学生たちのこのような疑問に答え、同時にフランス語の集中強化トレーニングを行うことが目的でした。教員2名、学生7名、フランス人留学生チューター2名の参加者は、合宿中、「フランスにいるかのようにフランス語を使おう」をモットーに、実用フランス語の演習に力を入れました。少人数の簡単なディスカッションなどを通し、表現力の向上が顕著でした。一方、授業の後は映画鑑賞やフランス料理を味わう時間も設けました。



「フランスが前より近くなりました」「日本にいながらも、フランスの文化を味わい、生活を

楽しむ術に触れることができました」などが参加者たちの感想です。

この合宿は実際のフランス滞在の準備となったのはもちろんですが、参加者各自がフランス語学習の目的について考えるよい機会になったと言えるでしょう。フランス語習得がもたらすものは語学力だけではありません。感性を豊かにし、新しい価値観を見出すことができます。その点では、日本語とフランス語の「言語的距離」自体は、マイナスであるどころか、大きなメリットでしょう。日本語とまったく違うフランス語を習得することで《別人になるチャンス》をつかめるのです！

(フランス語担当教員 CHICHE Didier)

学習指導室・マルチメディア自習室利用のご案内

<学習指導室>

国際言語文化センターでは、学生の皆さんの「外国語」学習の手助けをするために、「外国語学習相談アワー」を開設しているほか、6号館5階【英語学習指導室651】、【ドイツ語・フランス語学習指導室652】、【中国語・韓国語学習指導室653】を外国語学習のために利用することができます。海外語学講座や長期留学、その他言語学習のためのグループワークや情報交換などに、落ち着いて学習できるスペースを利用してください。(利用できない時間帯がありますので、利用するときは国際言語文化センター事務室へお問い合わせください。)

【学習指導室自由利用】

開設場所：6号館5階 各言語学習指導室

開室期間：授業開講期間中

開室時間：月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

設備内容：書籍、雑誌、など。

(但し、担当専任教員に相談の上利用できます。)

利用方法：6号館3階国際言語文化センター事務室
へ利用申込みをしてください。(要学生証)

【外国語学習相談アワー】

開設場所：6号館5階 各言語学習指導室

開設期間：授業開講期間中

開設曜日：英語(火・木)、ドイツ語(金)、
フランス語(木)、中国語(月)、韓国語(水)

開設時間：12:20～12:50 (昼休み)

相談担当者：国際言語文化センター専任教員

<マルチメディア自習室>

国際言語文化センターでは、6号館3階に学生のためのマルチメディア自習室を開設しています。パソコンやDVDを使って、授業の予習や復習、自己学習に活用できます。10台のブースがありますので、融通して使用ください。

開設場所：6号館3階マルチメディア自習室

開室期間：授業開講期間中

夏期休暇期間及び春期授業休止期間は、隣りのマルチメディア言語教育サポート室又は国際言語文化センター・広域副専攻センター事務室へ申し出てください。

開室時間：月曜日～金曜日：午前9時～午後4時 土曜日：午前9時～正午

設備内容：ブースデスク10台、デスクトップコンピュータ10台、

DVD/ビデオ CD プレーヤー10台、MD-CD コンビネーションデッキ10台、

ダブルカセットデッキ10台、カセットプリンター、レーザープリンター各1台

利用方法：自習室に説明案内を提示しています。

※DVD ソフト、CD-ROM、各種検定試験に関するカセット・CDソフトも用意しています。